



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

猛暑でも診療しています

口腔腫瘍外科 診療科長・教授 嶋根 俊和

猛烈に暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私が小さい頃は、夏も気温は30度くらいだったかと思います。そして暑いながら昼間も窓を開けて過ごしていたのを覚えています。30度を超えると母親から「外で遊ぶのをやめなさい、倒れちゃうから」と言われ、家で高校野球の夏の甲子園大会を4試合見ていた思い出があります。今や夏の甲子園でもクールダウンの時間や開始時間の検討がなされるほど暑く、もう35度は当たり前の状態になってきたと思います。そして災害的に暑いのでエアコンをつけて不必要な外出は避けた方がいいと報じられることもたびたび耳にします。

ところで、口腔がん診療の話ですが、夏の期間は毎年患者さんの数が減少します。口腔がんの患者さんは高齢者の方も多く、外出や受診を控えているケースがあります。これまでは9月ごろに少しずつ受診される患者さんが増えてきますが、よく聞いてみると夏前から症状があったケースがほとんどになります。

最近では梅雨前から暑い日が続出し、9月になっても暑さは収まることはなく、猛暑の期間が長くなったと実感されると思います。がんは暑くても季節に関係なく進行しますので、症状がありましたら早期の受診をお勧めします。特に暑い日には、暑さ対策や水分をしっかりとって受診いただきたいと思います。

口腔腫瘍外科は、歯科病院と昭和大学病院頭頸部腫瘍センターと重複するスタッフもあり、密な連携を取っています。そして本年からは、がん専門病院に長年勤務していたスタッフが2名赴任し診療を行っております。これまで以上に診療の質が向上しているのを我々スタッフも実感しております。

がん治療には手術、放射線、化学療法などがあります。口腔腫瘍外科では治療の内容、合併症など患者さんの状態にあわせて2つの病院から選択し、安全で高度な医療をお届けできるようにしております。



- P1 巻頭言 猛暑でも診療しています
- P2 診療科紹介 口腔腫瘍外科
- P3 新入職員ご挨拶
- P4 昭和大学公開講座開催のお知らせ、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：口腔腫瘍外科

口腔腫瘍外科 助教 筑田 洵一郎

口腔は咀嚼、嚥下、構音、そして顔面の形態に關与する重要な部位です。この口腔にもさまざまなできもの（腫瘍）が発生し、良性腫瘍から悪性腫瘍（がん）まで、さまざまなものが存在します。

私たち口腔腫瘍外科は、主に口腔に発生する腫瘍に対し専門的な治療を提供しています。スタッフは頭頸部外科医である嶋根俊和を診療科長とし、他歯科医師8名で診療にあたっています。口腔がんは進行が早く放置することで命にかかわりますので、早期に発見し早期に治療を行うことが重要となります。

口腔がんにおいて手術治療は最も基本的な治療となり、早期がんであればほとんどの場合が大きな後遺症がなく切除をすることが可能です。しかし、進行がんでは切除をすることで「食べる」や「しゃべる」などの生活に必要な機能が著しく低下してしまいます。

当科では、このような進行がんに対し頭頸部外科医師と連携した昭和大学頭頸部腫瘍センターとして再建手術（切除で失われた部位への移植手術）を積極的に行っています。また、口腔機能リハビリテーション科歯科医師や言語聴覚士と協力し、欠損した部位に対す

る補綴（入れ歯）治療やリハビリテーションを行うことで、術後の機能回復に努めています。

口腔がんの罹患率は、2000年と比較し約2倍に増加しています。1年間で10万人あたり約7人が口腔がん罹患しており、東京都（1,396万人）では毎年約1,000人が口腔がんと診断されると考えられます。進行した口腔がんの低減には早期発見が最も重要ですので、2017年より近隣の歯科医師会の先生方と、ともに口腔がん検診に取り組んでいます。また、当院にお招きし口腔がんに関する講演、口腔内診察や頸部診察の手技における研修会を開催することで社会・地域貢献活動を行っております。

口腔はセルフチェックが可能ですので、歯磨きついでにお口の中を観察することをお勧めいたします。もし、「治らない口内炎がある」「よく口から出血する」などの症状がございましたら歯科病院へ受診いただけたらと思います。

今後も、さらに患者さんにより良い医療を提供してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



口腔がん検診



地域の先生方との研修会

新入職員 ご挨拶

本年4月より口腔機能管理科に講師として入職いたしました、鈴木啓之と申します。

前任校の東京医科歯科大学においては、東京医科歯科大学病院オーラルヘルスセンターの副センター長として、周術期口腔管理、入院患者に対する専門的な口腔衛生管理や歯科治療等を実施するとともに、栄養サポートチームに歯科専門職として参画するなど、急性期病院において『病院歯科』が求められる診療業務の一端を担ってまいりました。

今後は口腔機能管理科の一員として、歯科病院へ通院される患者さんや昭和大学附属病院に入院している患者さんの口腔の健康状態や「食べる楽しみ」の改善に貢献していきたいと考えております。今後とも何卒ご指導のほどよろしくお願いいたします。

口腔機能管理科 講師 鈴木 啓之

本年3月に本学大学院を修了し、4月より医科歯科連携診療歯科に助教として入職しました柴野周哉と申します。

大学院ではう蝕罹患に伴う励起蛍光について研究しておりました。当科は主に、ご病気をもった患者さんを対象として診療しており、全身疾患のため歯科治療時に特別な配慮が必要な患者さんに対して医科と連携を取り、最適な管理下で治療を行っております。

また、「歯科治療がとても怖い」「歯科治療時にえずく」などの患者さんに対しても、全身麻酔やリラックスする点滴を行いながら歯科治療を行っております。

今後は臨床だけではなく、研究、教育にも携わり昭和大学の発展に貢献できるよう研鑽して参りますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医科歯科連携診療歯科 助教 柴野 周哉

本年4月より口腔機能リハビリテーション科助教（歯科）として入局いたしました千葉 嵩矢です。当科では、むせやすくなった、飲み込みがしづらくなった患者さんへのリハビリテーション方法の相談や指導を行っております。また、お口の癌の手術後による影響、生まれつきうまく発音ができない、発音しにくい言葉がある方へ、入れ歯や発音補助装置を作製したり、歯科医師と言語聴覚士が連携し、ことばの訓練も行っております。

おいしく食事をとり、楽しく会話ができるよう患者さんの生活に少しでも貢献できるように治療に励んでいきます。

お食事や発音に不安がある方は気軽にご相談して下さい。皆様が安心して治療を受けられるよう日々精進して参りますのでよろしくお願いいたします。

口腔機能リハビリテーション科 助教（歯科）
千葉 嵩矢

第27回 昭和大学公開講座

「暮らしと健康」～お口の健康～

皆様のお口の健康維持に役立ちたいと考えて、公開講座を開催いたします。

【第1部】精密な根管治療で歯を残そう

鈴木 規元（歯内治療科・診療科長）

【第2部】歯周病って、治るんですか？

山本 松男（歯周病科・診療科長）

【第3部】健康な歯を目指して

～歯磨きで知っておきたい10のこと～
城生 麻里（歯科衛生士）

講演後に相談コーナーを設置！

講演を行う歯科医師・歯科衛生士が皆様からの相談にのります

日時 2024年10月12日(土)

講演：13時～15時 受付時間：12時30分～

相談コーナー：講演後1時間程度

会場 昭和大学歯科病院 6階臨床講堂

大田区北千束2-1-1

申込み
不要

受講証をご希望の方のみ申込が必要です
当院1Fでポストへ申込書投函
または、QRコードより申し込み可能



参加費
無料

※手指消毒、体温チェック、マスク着用をお願いいたします。
また、会場内での食事はご遠慮願います。

昭和大学歯科病院

お問合せ先：03-3787-1151（事務課 公開講座担当）

E-mail：dh-festa@ofc.showa-u.ac.jp

主催：昭和大学・昭和大学歯科病院 後援：大田区

編集後記

先日、パリ五輪が無事終わりました。日本人のメダルラッシュは毎朝ニュースで見る度に私たちに勇気と活力を与えてくれました。

しかしながら、最近では再びコロナの感染者数が増加傾向にあります。夏風邪やコロナの対策をしつつ、ハンディファンの活用や適度な水分補給などの熱中症対策もして、この夏を乗り切りましょう。

(S.K.)

